

平成 18 年度市民活動支援センター事業報告

1 事業の総括

調布市市民プラザあくるす市民活動支援センターがオープンして2年。市民活動支援センター運営委員会（11回）や運営委員研修（1回）、公開ミーティング（1回）、利用者会議（3回）などを開催し、市民参画のもと運営を進めた。

あくるす市民活動支援センターの利用については、前年度に比べ、はばたきや貸出しパソコンの稼働率、ホームページのアクセス数などが大幅に増加し、施設の認知度がかなり高まったことがわかる。

センター、ランチに入る問合せや相談対応の中では、通学時あるいは学校生活における障害児のサポート、ドメスティックバイオレンスや児童虐待、災害時対応など、さまざまな地域課題やニーズがみえてきている。

また、介護保険制度や障害者自立支援法などの法制度が整備されるにともなって、そのはざまに落ちてしまっているケースへの対応や、統合失調症や人格障害など心の病気を持つ方々への対応も増えている。

これらの課題やニーズに対して、社協や地域包括支援センター、市役所などの関係機関や、NPO・ボランティア、自治会、民生児童委員、商店会、学校、PTA、健全育成などさまざまな立場の人たちと連携し、それぞれの組織特性を生かして課題解決に取り組んだ。

コミュニティの再生、地域力を高めていく上で、このような専門性をもったNPO・ボランティアと地域に根付いた地縁組織との連携、協働は重要なポイントであり、今後さらに社協がもつネットワークを活用して、中間支援組織としての役割を果たしていきたい。

個別の相談対応以外では、市民学習講座や講演会、ライフスタイルの提案や活動のきっかけづくりとなる事業、NPOマネジメント講座などの啓発事業をおこなった。

近年、ボランティア、NPO、市民活動、とさまざまな言葉で表される、市民の主体的な社会参画が広く認知されるようになり、コミュニティビジネスや事業型NPOなど新しい形の活動も増えてきている。ボランティア・NPOなどへの関心が高まり、活動の担い手が増えること、市民の社会参画が進むことは望ましい状況である。

しかし一方で、公益性、非営利性といったNPOの重要な性質を欠いてしまった活動や団体が生まれてきていること、NPO全体の社会的信頼感を損ねるような出来事があとを絶たないということもまた現実である。

介護や医療など、人々の生命や生活を保障する現場で、ボランティアが+のクオリティを生み出すどころか、サービスを維持するための必要な労働力となっている現状もある。

このような社会状況下で、あらためて、ボランティア本来の理念やボランティアの原点、NPOの使命といったものを考えながら次年度の事業運営につなげていきたい。

2 センターおよびブランチの運営

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

住民の主体的な活動を支援し、市民参画型のまちづくりを積極的に進めるため、毎月1回市民活動支援センター運営委員会を開催し、センター事業についての協議をおこなった。

市民活動支援センター運営委員会

任期：H17.1.25～H19.3.31（敬称略・50音順）

氏名	主な活動、所属など
安部 宝根	特定非営利活動法人調布まちづくりの会
宇津木 光次郎 (18年4月～)	調布市生活文化部市民参加推進室生涯学習交流推進担当
金子 日出澄	市民活動支援センター長
熊谷 紀良 (17年4月～)	東京ボランティア・市民活動センター
阪井 伸子	調布市地域福祉活動計画策定委員、ミニデイ活動ボランティア
坂間 元明 (委員長)	調布明るい社会づくりの会
佐藤 勇治	特定非営利活動法人全国教育ボランティアの会
島村 誠	調布市立第六中学校教育コーディネーター
杉山 典子 (副委員長)	あいさつ運動推進会、調布の自然学習ボランティア
洲崎 美千代	子育て関係
原島 敬之	調布市商工会
増田 栄八郎 (17年11月～)	調布まちづくり市民フォーラム
山口 昌之 (副委員長)	調布市国際交流協会
若林 裕子	野ヶ谷の郷運営スタッフ
和田 敏明	ルーテル学院大学教授

平成18年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月26日	【審議】平成17年度事業報告・決算(案)【協議】新規事業の方向性について(市民活動団体実態調査、市民活動団体等助成事業)【報告】実施事業報告、はばたき活用状況（出席委員：7人）
第2回	5月31日	委嘱式、【協議】協働のしくみづくりに関する調査、市民活動団体助成プログラム【報告】実施事業報告、はばたき等活用状況（出席委員：11人）
第3回	6月27日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動助成要綱

		(案)【協議】協働に関する調査【報告】第4、5回運営委員会について、実施事業報告、はばたき等活用状況 (出席委員:6人)
第4回	7月25日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動助成要綱 (案)【報告】市民と行政の協働に関する調査、実施事業報告、今後の予定、はばたき等活用状況 (出席委員:8人) 【運営委員研修】19:00～21:00「会議上手になる！」 講 師:青木将幸氏(青木将幸ファシリテーター事務所) ねらい:運営委員会の会議力・オーナーシップを高める
第5回	9月14日	【審議】社会福祉法人調布市社会福祉協議会市民活動助成要綱 (案)【報告】えんがわファンド選考結果、市民活動支援センターの方向性を話し合う公開ミーティング、市民と行政の協働に関する調査、はばたき等活用状況 (出席委員:10人)
第6回	10月27日	【審議】市民と行政の協働に関する調査報告書、今後のセンター運営の方向性【報告】やあやあドリームオールスターズ2006、仙川・緑ヶ丘ふれ愛のつどい、その他 (出席委員:9人)
第7回	11月28日	【協議】市民と行政の協働に関する調査報告書、えんがわファンド活動見学、市民活動交流事業 (出席委員:12人)
第8回	12月20日	【協議】えんがわフェスタ2007、「市民と行政の協働に関する調査」報告会&意見交換会【報告】実施予定事業の案内、実施事業報告 (出席委員:8人)
第9回	1月16日	【協議】平成19年度事業方針(案)、「市民と行政の協働に関する調査」報告会&意見交換会、えんがわフェスタ2007【報告】実施予定事業案内、実施事業報告 (出席委員:10人)
第10回	2月6日	【審議】平成19年度事業方針・重点項目(案)【協議】平成19年度事業計画(案)、平成19年度市民活動支援センター特別会計予算(案)【報告】えんがわフェスタ2007進行状況、実施事業案内、報告 (出席委員:10人)
第11回	3月6日	【審議】平成19年度市民活動支援センター事業計画(案)、平成19年度市民活動支援センター特別会計予算(案)、平成19年度一般会計ボランティア活動経理区分予算(案)【協議】えんがわファンド交流会、えんがわフェスタ2007、「市民と行政の協働に関する調査」報告会&意見交換会 (出席委員:10人)

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

広く利用者の声を直接聞く機会を設けるとともに、利用者間の横のつながりを活性化することを目的として実施。18年度より「えんがわミーティング」というタイトルをつけた。

第1回 えんがわミーティング～W杯ドイツ大会開催記念～

日 時	平成18年7月1日(土) 午前11時30分～午後2時
-----	----------------------------

会 場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	参加者 20 人、スタッフ 6 人、運営委員 1 人
<p>1. 目的</p> <p>幅広い市民参画によるセンター運営を目的に開催していた「利用者会議」の通称として、平成 18 年度より「えんがわミーティング」とした。誰もが気軽に参加できる会を目指しつつ、市民の「交流の場」、また「学びの場」とすることを目的とする。なお、平成 18 年度は「協働」をテーマに開催に至った。第 1 回では、企業と市民との協働の活性化およびそのきっかけのヒントを得ることが目標であった。</p> <p>2. プログラム</p> <p>挨拶 トークショー ランチセッション センター運営に対するご意見・ご要望・ご提案</p> <p>3. 内容</p> <p>トークショー ゲスト：村林裕氏（東京フットボールクラブ(株)専務取締役） テーマ「FC 東京の地域に根ざした取り組みについて～市民との協働をもとに」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FC 東京がこれまで取り組んできた地域での活動紹介（スライドショー） サッカー教室の開催、1 年間に 15 回キャラバン隊の実施、バレーボール教室の開催、商店会や PTA などの地域の団体との協働イベント開催、プレイヤーズシート（児童養護施設の子どもたちへ試合観戦の機会を提供）、知的障害者サッカー教室「にこにこサッカークリニック」の開催など ・ クラブと市民スポーツボランティアとの関わり 活動場所の提供（会員数：約 850 名）、スタジアムの美化やスタジアム内の案内などを実施。 ・ 環境への配慮 「マイタンブラー制度」の導入。スタジアムでの紙コップゴミの削減が目的。 現在、日本の Jリーグでは、FC 東京のみが実施。 ・ 今後の展望、夢について 「30 年サイクル」を目指す。「親と子」、「祖父母と孫」の 3 世代ファミリーでの試合観戦が定着することが夢」と語っていらっしゃった。 <p>ランチセッション</p> <p>お弁当を囲みながらゲストや参加者の皆様と交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介（氏名、所属団体、関心のある協働のテーマなど） ・ 団体 PR （活動内容・状況、イベント紹介など） <p>センター運営に対するご意見・ご要望・ご提案など 参加者の方からのご提案およびそれに対する回答</p> <p>Q. 「せっかく、今回 FC 東京さんでマイカップ・タンブラー持参を推奨されていらっしゃるので、このえんがわミーティングに関してもそれに倣ってはいかがでしょうか。」</p>	

A. 「ぜひ、当センターでも今後、推奨していきたいと思います。」

参加費： 無料（ 希望者のみ別途、昼食代 1,000 円）

展示コーナー

・FC 東京所属の GK 土肥選手、DF 茂庭選手（両者とも日本代表・当時）のサイン入りグッズや今野選手のサイン入りスパイク（本人使用済み）などのグッズを FC 東京様よりお借りし、展示させて頂きました。

第 2 回 えんがわミーティング

日 時	平成 18 年 10 月 18 日（水）午後 6 時～8 時
会 場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	利用者 16 人、スタッフ 6 人
1. 目的 センター利用団体の活動紹介の場となること 調布市内の資源を有効活用するため 「食」の「自給」について考えるきっかけとなること	
2. プログラム 挨拶 トークショー 参加者および団体紹介 その他、ご意見・ご提案など	
3. 内容 トークショー ゲスト：尾関葉子氏 (DADA - アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト代表) テーマ「目指せ 1%！私の自給率・地元率 - アフリカから学ぶ本当の生活力」 ・農業支援を行なう NGO である DADA の活動および活動地域のアフリカ・ジンバブウェの現状についてスライドを交えながら説明。 ・ワークとして、自分の好きお弁当を描いていただき、その食材はどこから来ているのか、国産か、外国産で色分けを行い、その割合を視覚より考察。日本の食料自給率は 4 割（カロリーベース）しかなく、ほとんどが輸入に頼っているという現状を知る。また、「どこからきたものを食べているのか？を知ることが第一歩」となり、「家計での算出方法で、自給率を 0% から 1% に引き上げられるよう」事例をもとに促した。 ・また、調布市内にはまだ農家の方が残っており、地元の食材をなるべく地元で食すという「地産地消」の取り組みも紹介した。	

第 3 回 えんがわミーティング～1 年間の総まとめ～

日 時	平成 19 年 3 月 21 日（水）午後 2 時～4 時
-----	-------------------------------

会 場	調布市市民プラザあくろす 2F 会議室 1
参加者数	利用者 16 人、スタッフ 3 人
<p>1. 目的</p> <p>2006 年度に当センターで実施されたイベントや様々な事業を振り返るとともに、参加者間のネットワークの強化を行なうこととする。また、センター内での市民活動団体同士の協働事例を聞くことにより、今後、新たに協働を検討されている団体に対し、よいきっかけとなることを目的とする。</p> <p>2. プログラム</p> <p>市民活動支援センター平成 18 年度の取り組み～ビデオ上映～ 事例紹介 活動紹介 フリートーク センター長挨拶</p> <p>3. 内容</p> <p>ビデオ上映では、当センターが 18 年度に実施した数々の NPO 関連講座や奉仕体験活動フォーラム、調布サマーボランティア 06、えんがわフェスタなどの事業記録をスタッフが編集した DVD を鑑賞した。</p> <p>事例紹介～「特定非営利活動法人 do be くらぶ（以下、do be くらぶ）」と「パソコンサークル・オアシス（以下、オアシス）」の共催事業について～</p> <p>テーマ「共催イベントを通じて見えたものとは？～協働の一事例として～」</p> <p>ゲスト：龍野哲夫氏（do be くらぶ理事長）</p> <p>角田美千代氏（同・理事）</p> <p>福井須賀子氏（オアシス代表）は、都合により欠席したが、事前にインタビューを行ない、その内容を参加者に配布した。</p> <p>共催事業名称： 「ペイントとワードで作る絵手紙年賀状」</p> <p>共催内容：パソコンでの年賀状作成。両団体の共通点であるパソコンを用い、do be くらぶが得意とするペイント機能活用とオアシスが得意とする文書作成・編集などを全 4 回で実施。</p> <p>実施日時： 11 月 4 日・11 日・18 日・25 日（全て土曜日） 午後 1 時～4 時</p> <p>費用： 1 回 1,000 円（資料代）</p> <p>・法人と任意団体の相違によるメリット、デメリット</p> <p>例）運営形態、経費の清算方法、役割分担など</p> <p>活動紹介</p> <p>各参加者が実践する活動を紹介し、互いに知り合うことで、協働できるポイントを探しあう機会とした。</p> <p>フリートーク</p> <p>ここでは、上記 で互いの活動を知った上で、自由に各個人同士が話し合える場を提供した。共通するポイントだけでなく、違う分野の違う活動であってもアイデア次第で、協働できることがあることを知って頂いた。</p> <p>センター長挨拶</p> <p>1 年度間を無事終了できたことをご支援、ご協力くださった皆様に感謝するとともに次年度に向けた展望をお話させて頂いた。</p>	

成果・反省点・課題

- * 市民活動支援センターとして取り組んできた利用者会議であるが、平成17年度の反省より本来の目的の1つである「利用者間の横のつながりを構築し、交流を活性化させること」を推進するべく、ゲストを招き、「協働」という大テーマのもと、今回は「企業、国際協力」を小テーマにして、学びの場とすると共に交流の場としての「えんがわミーティング」を確立できたのではないかと思う。

平成19年度も「市民と行政の協働に関する調査報告書」と関連させ、引き続き、「協働」を大テーマとした「えんがわミーティング」を開催していきたい。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度

自立した市民社会の創造、住民参加型のまちづくりの実現を目指すセンターの方針に賛同し、センター運営を資金面から支えていただくサポーター会員制度が設置されて2年目となる。サポーター会費は市民交流事業に活用した。

サポーター会員数:32口（内訳:26団体、3人 複数口の加入もあり）

活動分野:情報化、福祉(児童、障害児・者、高齢者)、生涯学習、リサイクル・環境、歴史・文化・芸術、子育て・教育、国際協力・交流、生活環境づくり、男女共同参画、心理など

4 「市民活動支援センターの方向性を話し合う公開ミーティング」開催

日 時	平成18年8月25日(金)午後6時30分~9時
会 場	調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター活動スペースはばたき
内 容	ワークショップ ファシリテーター:青木将幸氏(青木将幸ファシリテーター事務所) 「現在のセンター評価」「3年後にこうなったらいいなあと思うセンターの姿」
参加者数	20人

成果・反省点・課題

- * 現在のセンターに対する評価は平均69点(100点満点)
よい点としては、スタッフの対応が気持ちいい、新しいことにチャレンジしようとする姿勢がみえる、広くて使いやすい、などが挙げられた。
- * 反面、努力が必要な点としては、認知度が低い、まちの課題に立ち向かっていない、まだまだ発展途上、などさまざまな指摘があった。
- * 3年後どのようなセンターになっていたらいいと思うか、という話し合いでは、気軽に相談できるセンターにしたい、多種多様な社会とネットワークをつくり、調布のまちにたくさんの市民活動を創り続ける市民活動生産現場としたい、民間運営のよさを生かし、自由な発想で、多くの市民活動団体とのパートナーシップによる事業展開ができるといい、スタッフが地域の施設やイベント、人材情報に精通し、コーディネート機能が充実

しているセンター、などの意見がだされた。

- * 運営主体者である運営委員とお客様である市民のみなさんが同じテーブルで率直な意見交換ができたことはとてもよい機会であった。このミーティングでだされた意見を今後どのように生かしていくか、運営委員会で議論していきたい。

5 市民交流事業の実施

えんがわフェスタ2007 背広を捨てよ 町へ出よう

「団塊世代」と「NPO と企業の連携」をテーマに、市民交流事業を実施した。内容は、シニア男性のファッションショー、トークショー、NPO や企業による展示や体験コーナーなどで、来場者は約 300 人であった。

開催日	3月18日(日) 午前10時～午後3時
会場	国領駅北口、調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター
来場者数	約300人
主催	調布市・社会福祉法人調布市社会福祉協議会
協力	コクティ管理組合、国領商盛会、(株)玉喜屋、京王電鉄(株)、日綜コミュニティ(株)、東京電力(株)、(株)西友国領店、ティップネス国領店、調布 FM(株)、シャトー・ド・サンクゼール、ウインク佐野、182ch、国際理容美容専門学校国分寺校 (順不同)

プログラム

国領駅北口

10:30～10:45	ダンベルを使ったデモンストレーション	協力:ティップネス国領店
10:45～11:15	アコースティックライブ	出演:ジオラマシーン
11:30～12:30	JAZZ ライブ	出演:ハマトラ・ジャズ楽団
12:30～13:30	男性市民モデルによるファッションショー	出演:沖田博則氏、川上ヨシエ氏、土方正治氏、御林洋氏、片山哲氏、田村清男氏
10:30～15:00	オープンカフェ(ジャム付パケット&ハーブティーの試食、試飲/おしるこ/コーヒー・クッキー)	協力:シャトー・ド・サンクゼール、高次脳機能障害者のつどい調布ドリーム、カフェ染地

はばたき・会議室1

10:00～15:00	NPO による展示、体験コーナー	(出展団体は別表)
	えんがわ茶席	協力:坂間元明氏(運営委員長) 杉山典子氏(副運営委員長)
13:30～15:00	トークショー(於:えんがわセット) 「人生を10割楽しみたい よくばり団塊世代への提言」	出演:石津祥介氏(ファッションプロデューサー)、竹内一郎氏(ベストセラー「人は見た目が9割」の著者)、大江宣夫氏(NHK エンタ

		ープライズエグゼクティブプロデューサー)
10:00 ~ 15:00	さわって遊べる鉄道模型 京王線立体交差化事業紹介コーナー	協力:京王電鉄(株)

出展団体一覧

	展示	内容
1	建築ユニオン調布支部 建築センター テクノステージ	井戸小屋木造模型展示(2m*2m)
2	わりばしリサイクルグループ くるりん	わりばしがリサイクルされるまでの工程・リサイクル後およびリサイクルするメリットについて。
3	調布の自然学習ボランティア	草笛・竹笛体験
4	調布日本語ボランティアの会	外国人への日本語学習(ポスター他)
5	クリーンズ会	活動紹介,実演,PC 相談
6	バラエティ	手芸作品展示
7	調布災害時ボランティアコーディネーターの会	防災に役立つもの、日頃の活動紹介
8	調布わいわいサロン	団塊・シニア世代向けの活動紹介およびサロンの紹介
9	le fleur de "lien"	フラワーアレンジメント
10	スペースクッション	心の悩みを抱える方々への相談など日頃の活動紹介
11	みつわ会	手芸作品展示(一点えんがわセットに展示)
12	コクティ管理組合	国領駅北口再開発の様子(写真展示)
13	調布パソコンサークル	PC での名刺作り,T シャツ印刷
14	NPO 法人全国教育ボランティアの会	天才カメラレース ハノイの塔 絵合わせ四次魔法陣 図形の不思議 ミニプラネタリウム,望遠鏡,スーパーライトグライダー
15	NPO 法人 do be くらぶ	パソコン絵手紙展示
16	NPO 法人調布まちづくりの会	活動紹介、相談コーナー

17	みきわかエコノミー出版 [株]日本出版製作センター]	書籍販売相談会
18	京王電鉄(株)	模型の電車操作体験、制服着用体験、工事風景画像紹介
19	えんがわ相談コーナー	ボランティア・NPO 相談コーナー

	出店	内容
20	カフェ染地	コーヒーとクッキーの販売
21	高次脳機能障害者のつどい「調布ドリーム」	おしるこ

えんがわフェスタ2007実行委員会

氏名	所属・主な活動団体
宇津木 光次郎	調布市役所生活文化部市民参加推進室生涯学習交流推進担当課長
香月 りさ	調布 FM(株) パーソナリティー
後藤 宏	(株)西友国領店 店長
阪井 伸子	市民活動支援センター運営委員
塩澤 信之	コクティ管理組合 理事長
鈴木 宗貴	社団法人調布青年会議所
細谷 賢	多摩信用金庫 調布支店長
牧野 高明	国領商盛会 会長
山口 昌之	市民活動支援センター副運営委員長
渡辺 弘樹	(株)ウィード 代表取締役

(敬称略・五十音順)

成果・反省点・課題

- * NPOのほか、地元商店会や企業などと連携し、事業を実施したことで、新しいつながり、関係づくりができた。今後もひきつづき、地域におけるネットワークを構築していきたい。
- * 構想は早くから練っていたものの、協力者探しが難航し、企画が固まった時期がとても遅かった。広報の面などからも、来年度は準備期間に余裕をもった進行をしたい。

プレえんがわフェスタの開催(あくろす祭り関連事業)

2月に開催したあくろす祭りの一環としてプレえんがわフェスタを開催、3事業を実施した。

日時	会場	内容
2月3日(土)	市民プラザ	えんがわマネー講座「オニはソト！カネはウチ！～助成金申請のポイント

午後 1 時 30 分 ～ 4 時	あ く ろ す 会 議 室 1	トを学ぼう」 (NPO 講座報告で再掲) 講師:熊谷紀良氏(東京ボランティア・市民活動センター主任) 東郷琴子氏(松下電器産業株式会社社会文化グループ) 参加費:2,000 円 参加者:16人
2月3日(土)	市民プラザ あ く ろ す 調 理 室	「調布の野菜を使った旧正月のお料理講座」 野菜を使った旧正月のお料理づくりを通して、調布の農業、野菜の楽しみ方について学ぶ。 講師:香月りさ氏(日本ベジタブル&フルーツマイスター協会ジュニアマイスター) 協力:遠藤かなめ氏(日本ベジタブル&フルーツマイスター協会マイスター/遠藤農園) メニュー:シンガポールのニューイヤースアラダ、聖護院大根のスープ、春餅 参加費:一人 2,000 円 参加者:8人
2月4日(日)	市民プラザ あ く ろ す 2Fはばたき	えんがわで逢いまSHOW ~音楽と語りを楽しむひととき~ 出演:維新力氏(元関取、現プロレスラー)、東迎史明氏(島唄歌手)、大江宣夫氏(NHKエンタープライズエグゼクティブプロデューサー) 協力:フレエイ株式会社 内容:「えんがわ」をテーマにしたトークショーと三線、島唄のステージ 参加費:無料 参加者:約40人

6 小島町コーナーボランティア活動室利用者会議の開催

市民活動支援センター・小島町コーナーでは、ボランティア登録団体の皆さまに活動室やメールボックス等の貸し出しを行っている。年に1度、ボランティア活動室を利用している団体を対象にボランティア活動室利用者会議を開催。この会議では、ボランティア活動室利用方法の確認やボランティア活動室の運営がより円滑に利用が出来るため利用団体の声を聞く機会となることと同時に利用者間の横のつながりを活性化することを目的としている。

日 時	平成 19 年 2 月 15 日 (木) 午前 10 時 ~ 11 時 30 分
会 場	総合福祉センター (2 階) ボランティア活動室
参加者数	利用団体 15 団体 17 人、スタッフ 1 人
<p>1. プログラム 事務局より 活動室利用について メールボックス・棚の利用について その他</p> <p>2. 内容 活動室利用方法の確認 ・予約受付開始 ・定例活動について ・棚の利用について ・メールボックスについて メールボックス・棚の利用について ・棚を3段増設したので、利用希望団体を決める</p>	

ボランティア利用室利用者会議に初めて参加した団体もいらしたので、お互いどのような活動を行なっているか団体の紹介をしたり、情報交換した。

成果・反省点・課題

- * ボランティア活動室利用者会議に初めて参加された団体を対象に参加者全員に活動室利用方法を再確認することができた。
- * 以前より要望のあった棚と提供することができた 物品の保管場所にならないよう再確認をした
- * ミシンが3台の点検をして欲しいとの要望があった 早急に修理をするように手配する

7 「野ヶ谷の郷」

梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センター6番目のランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民(野ヶ谷の郷運営委員会)が運営している。

(1) 概要

機能	ボランティアビューロー機能 貸スペース機能 福祉ショップ機能 地域活動拠点機能 活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土 ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日
スタッフ人数	26人(うち役員5人)

(2) 野ヶ谷の郷運営委員会役員 (敬称略・50音順)

井垣 裕子(副代表)	ミニデイ深大寺東町ひだまり代表
磯野 幸子	上ノ原地区青少年健全育成委員
百合田 紀恵子	ミニデイ深大寺東町ひだまりスタッフ
四家 綾子(代表)	社会福祉協議会事業部会、ひだまりサロン立ち上げスタッフ
若林 裕子	市民活動支援センター運営委員、ミニデイ国領ひだまりスタッフ

(3) 役員会

第1回	6月24日(土)	梅の湯商店街まつりへの参加について、夏休みイベントについて、野ヶ谷の郷だよりについて
第2回	9月9日(土)	chofu みんなの夢ツリーへの参加について、ボランティア入門講座「はじめの一步」について
第3回	11月24日(土)	chofu みんなの夢ツリーの参加内容について、野ヶ谷の郷だよりについて
第4回	1月27日(土)	春休みイベントについて、じんだいフェスタへの参加について、兵平成19年度総会・交流会の開催について

第5回	3月10日(土)	総会・交流会について、平成18年度事業報告・決算について、平成19年度事業計画(案)・予算(案)について、春休みイベントについて
-----	----------	--

(4) 野ヶ谷の郷だより発行

野ヶ谷の郷や地域の情報を発信するため、「野ヶ谷の郷だより」を計5回発行した。

4月号(8)	春休みイベント報告、総会・交流会報告、ご近所支えあい隊のお知らせ
7月号(9)	ギャラリー紹介、ご近所支えあい隊のお知らせ
12月号(10)	平成18年度の取り組み報告、歳末たすけあい運動報告
1月号(11)	活動サークルの紹介、1月の予定
3月号(12)	春休みイベントの紹介、活動サークル・ギャラリーの紹介

(5) サークル活動

貸スペースを利用しての、自主サークル活動は11団体(1団体休会中)となっている。地域の活動の拠点として、様々な人や団体が利用している。

自主活動サークル

団体名	活動内容	活動日
囲碁同好会	囲碁	毎週金曜日
麻雀同好会	麻雀	第1・3木曜日、第2・4火曜日
筆字会	書道、篆刻(てんこく)	第1・3・5水曜日
お茶を楽しむ会	お茶とおしゃべり	第2・4月曜日
表装同好会	表装	第2・4月曜日
調布八雲苑 逆ミニデイ 休会中	高齢者との会食等	第2・4水曜日

野ヶ谷の郷スタッフによる活動サークル

団体名	活動内容	活動日
男性の料理教室	料理、会食	第2土曜日
絵を描こう会	絵画	第1・3土曜日
パッチワークの会	パッチワーク	第4木曜日
テーブルお点前	お茶会	第4木曜日
折り紙教室	折り紙	不定期

(6) ボランティア入門講座「はじめの一步」

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいと

いう方を対象に、ボランティア入門講座「はじめての一步」を開催した。

開催日時	参加者数	スタッフ数
4月15日(日)午前10時～12時	1人	1人
10月28日(日)午後1時～3時	0人	1人

(7) 梅の湯商店街まつり「大納涼祭」

梅の湯商店会会員として、商店街まつりに参加した。

開催日時	8月28日(月)午後4時～6時30分
会場	「梅の湯」駐車場
参加内容	野ヶ谷の郷の開放、オリジナルうちわの配布、模擬店手伝い

(8) 春休み・夏休みイベント開催

子どもから高齢者までが楽しみながら交流するイベントを、春休みと夏休みに合わせて開催した。

内容	開催日時	来場者数
わらべうたの集い	4月4日(火)午前10時30分～12時	15人
ビデオ鑑賞、お手玉作り、うちわ作り	8月1日(火)午前10時～午後3時	15人
お話会・紙芝居	3月27日(火)午後1時～3時	20人

(9) ご近所支えあい隊

再掲

成果・反省点・課題

- * 開設から2年を迎え、開設日全時間帯でスタッフ2人体制となるなど、運営は安定している。
- * 現在のところ、シニア中心の利用になっている。地域の様々な方が集い、交流できる場として、子どもや子育て中の親等、新しい層にどのように周知して、来てもらうかが課題。また、新規のボランティア(特に周辺住民)の募集も課題となっている。
- * 野ヶ谷の郷だよりの発行が遅れ、周辺自治会に配布できない月があった。
- * サークル活動だけでなく、深大寺地域で活動する市民活動団体の拠点として活用され始めている。

3 情報・資料の収集および提供

1 えんがわだよりの発行

ボランティア・市民活動情報を提供するため、毎月発行。隔月にタウン誌折込をおこなうなど配布先拡大、市民の手にわたる配布方法を工夫した。

発行目的	市民活動支援センターの活動報告、ボランティア募集等を含めた内容で、センターを多くの方々に知ってもらい、利用していただくこと、また市民活動を促進し市民主体の支えあうまちづくりをすすめていけるよう課題を提起することを目的としている。
発行日	毎月15日発行
発行部数	奇数月 3,500部(タウン誌182へ2,000部折り込み 菊野台地区) 偶数月 1,500部
配布先	市内公共施設(地域福祉センター、図書館、児童館、青少年ステーション CAPS、公民館、体育館、小学校、中学校、高校、大学、男女共同参画推進センター、子ども家庭支援センターすこやか、郵便局、京王線駅頭) 市民活動支援センターサポーター 東京ボランティア・市民活動センターほか都内ボランティア・市民活動センター
内容	特集記事(課題提起やまちの話題紹介など) ボランティア募集 市民活動支援センターの活動報告やお知らせ 地域の市民活動情報、助成金情報など

成果・反省点・課題

- * 毎月の定期的な発行は達成できたが、記事の内容、配布先の見直しなど広報誌としての役割や効果を検討していきたい。
また、市民の手にわたり、その情報がどのように活用されているのか反響・成果(ボランティア募集項目)等等直接の反応が伝わってこないのも、その点の追跡調査するなどの検討も必要。
- * 内容のマナー化防止。
- * 挿絵に関し、サポーター団体からの提供協力が得られ「えんがわだよりの」が、あらたな雰囲気としてスタートできた。

2 市民活動支援センターホームページ運営

市内のNPO法人「ちょうふどっとこむ」などや調布市立図書館の市民の手によるまちの情報発信事業である「まちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在約250の団体登録がある(前年度比50団体増加)。調布市生活文化部とも連携をとり、情報提供を行っている。

市民活動団体の情報の受発信(イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など)を支援すると同時に、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして情報の基盤整備、ページの見易さ、使いやすさを工夫するなど随時充実を図っている。

また、さまざまなネットワーク間、団体間の情報共有、センター及びコーナーの事業予定や内容の報告等に関する情報提供にも力を入れている。

平成18年度は約 45,000 件のアクセスがあり、昨年度と比べ 10,000 件のアクセス増加となった。（昨年度比132%の増加率）

月	前年度比	平成18年度 アクセス数	平成17年度 アクセス数
4	173%	3861	2236
5	149%	3605	2412
6	135%	3636	2690
7	133%	4066	3051
8	101%	3718	3682
9	123%	3799	3099
10	161%	3641	2262
11	145%	4281	2947
12	133%	3553	2666
1	121%	3997	3308
2	109%	3464	3177
3	98%	3547	3613
	合計	45168	35143
	平均増加率	平成18年度 平均アクセス数	平成17年度 平均アクセス数
	132%	3764	2929

成果・反省点・課題

* 18年度に引き続き、市民団体向けIT講座を通しての団体の活用度の向上を図るとともに、平成19年7月に予定されている市のホームページリニューアルに伴う、調布市生活文化部生涯学習交流推進課が管理する、「生涯学習情報コーナー」登録の生涯学習団体との情報共有と市内イベントの情報が効率よく受発信できるシステムの活用を通して、市民にとってより利便性の高いホームページの活用を行っていききたい。

3 資料コーナーの充実

ボランティアやNPO活動関連だけでなく幅広い分野のチラシやポスターを配架掲示して、イベントや講座の開催、ボランティア募集等の多くの情報を提供した。また、調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野に分けファイルしている。閲覧用の図書や報告書類も積極的に収集している。

平成18年4月～19年3月に受入れたチラシ等の内訳

内容	平成18年4月～19年3月に受入れたチラシ等の内訳		分野	平成18年4月～19年3月に受入れたチラシ等の内訳	
	件数	件数		件数	件数
内容	講座・講演	1007	分野	高齢者・子ども	419
	イベント	854		ボランティア全般	647
	団体・活動紹介	674		障害児・障害者	286
	ボランティア募集	363		地域・まちづくり	429
	助成金	220		文化・芸術・スポーツ	367

	その他	798		環境保護	119
	計	3916 件 (前年度比 23%増)		国際交流・協力	108
				その他	841
体 裁	チラシ	911		計	3,216 件 (前年度比 15%増)
	ニューズレター	790			
	ポスター	222			
	パンフレット他	295			
	計	2,218 部 (前年度比 18%増)			

主要雑誌 6 タイトルを定期購読

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウオロ	大阪ボランティア協会	年 10 回
NPO マネジメント	IIHOE (人と組織と地球のための国際 研究所)	隔月刊
ボランティア	富士福祉事業団	毎月
C's ニュースレター	市民活動を支える制度をつくる会 C's	隔月刊
NPO のひろば	日本 NPO センター	季刊

* その他の受入雑誌・・・「月間福祉」(全国社会福祉協議会発行) ホームレスの仕事をつくり自立を応援する「ビッグイシュー日本版」など

閲覧用図書・報告書類の充実

今年度新規受け入れタイトル・・・112タイトル

<添付資料 1>

<内訳> 市民活動関連 40 タイトル
福祉関連 21 タイトル
その他 51 タイトル

本のカテゴリ、図書ラベルの貼付、「分野別所蔵リスト」の作成

<添付資料 2>

所蔵数が増えたため、全図書、レポート類を分類し図書ラベルを貼付した。

分野ごとの配架になって前より見やすくなり、管理もしやすくなった。

資料コーナー利用者アンケートの実施(平成 18 年 8 月～9 月) <添付資料 3>

壁に掲示したアンケート用紙上の該当項目に自由にシールを張ってもらう方法をとった。

内容と集計結果は<添付資料 3>を参照。概ねスペースは使いやすいという評価を得た。広報誌、チラシなどの紙媒体情報の需要が多いこと、また利用者の関心分野などをあ

らためて確認でき、これらの結果をコーナーの充実に役立てたい。

「企業のCSRレポート2005-2006」展示コーナーの設置(平成18年9月～)
市民活動と企業との協働という視点から、主要企業約150社発行のCSRレポートを収集し、利用者の方に手にとってみていただけるよう展示している。

* CSR : Corporate Social Responsibility の略で「企業の社会的責任」と訳されている。

ワンポイント情報の提供(平成18年6月～)

「はばたき」を利用される団体の方々へ、ワンポイント情報として以下の内容のパウチシートを各テーブルに置いた。(「会議(ミーティング)進行のワンポイント」・「企画書の書き方」)

成果・反省点・課題

- * 図書の分類、図書ラベルの貼付、リストの作成、ニューズレターファイルやチラシを分野に分け、見出しをつけるなど前年度からの作業を完了したが、これからも利用者が欲しい情報を的確に提供できるよう、続けて工夫していきたい。
- * 資料コーナーにある情報を探すためにセンターに立ち寄る方、また閲覧用図書を読んで時間を過ごす方も見受けられるようになってきた。そのような利用者の方々にも興味をもっていただけるような、ミニ展示などを増やしたい。

4 ふくしの窓3 - 4面「市民活動支援センターだより」の充実

隔月発行(新聞折込)のふくしの窓の3 - 4面を「市民活動支援センターだより」全面に載せ、ボリューム、内容ともに充実を図った。

5 多様なメディア(媒体)を活用した情報提供

J-COM 株式会社(CATV)、調布FM株式会社、タウン誌(182チャンネル)、地域ポータルサイト(ちょうふどっとこむ)各社のご協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

6 市民活動・生涯学習団体ガイドブックの作成

調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内の市民活動団体(NPO法人含む)、生涯学習サークルの紹介冊子を作成した。

7 第26回調布ボランティアまつり

調布市を中心に活動するボランティア・市民活動団体が、活動の展示・体験、発表、模擬店、バザー等を通して広く市民に活動への参加を呼びかけることを目的に実施した。

開催日時	平成18年7月8日(土)午前9時45分～午後3時 当初4月23日(日)を予定していたが、天候不良のため延期した。
会場	調布市市庁舎前庭

主 催	調布市社会福祉協議会 第26回調布ボランティアまつり実行委員会
内 容	活動発表・展示、活動の体験・実演、模擬店、バザーなど
参 加 者	約800人

参加団体 25団体

No	団 体 名	内 容
1	NPO京王断酒会	アルコールのパッチテスト、販売
2	菊野台点字サークル	点字体験
3	グループなごみ茶屋	販売
4	手話サークル くすの木	手話体験
5	手話サークル「調布の会」	発表「手話コーラス」
6	障害を負う人々・子ども達と「共に歩む」ネットワーク	模擬店、販売、活動展示
7	スペース・クッション	販売
8	たんぼぼネットワーク	紙芝居
9	調布災害時ボランティアコーディネーターの会（調布SVC）	アルファ米の試食と販売、三角巾の訓練
10	調布市登録手話通訳者の会	舞台手話通訳
11	調布市ハンディキャブ運営協議会	模擬店
12	調布の自然学習ボランティア やあやあネットワーク	模擬店、販売
13	調布ボランティア連絡会	活動紹介・展示
14	調布WAT	販売
15	天使堂	模擬店、販売、万華鏡手作り教室
16	東京YWCA国領センター	販売
17	パッチワークグループ「ログキャビン」	作品展示、販売
18	ひまわりグループ	販売
19	姫としもべ	発表「バンド演奏」
20	ブレイブスの会	販売
21	ボランティアグループ だんでらいおん	ゲームコーナー、野点、販売
22	Lin MC Group	葬送相談
23	わりばしりサイクルグループ 「くるりん」	販売、わりばし回収
24	調布市社会福祉協議会 自主バザーグループ	模擬店、販売
25	市民活動支援センター	ボランティア・市民活動相談、模擬店

実行委員会の開催状況

回数	開催期日	開催場所	内 容
第1回	平成17年度 12月12日(月)	総合福祉センター 201・202会議室	調布ボランティア連絡会を開催して、ボランティアまつり実行委員会立ち上げを決定、実施要項の検討、世話人選出
第2回	1月16日(月)	総合福祉センター 団体室	正副実行委員長の選出、実施要項の承認、広報について
第3回	2月13日(月)	総合福祉センター 201・202会議室	参加団体の確認、チラシについて、ブースの決定
第4回	3月13日(月)	総合福祉センター 201・202会議室	備品及び搬入・搬出の確認、広報について、前日・当日のボランティアについて
第5回	平成18年度 4月10日(月)	総合福祉センター 201・202会議室	最終確認
反省会	5月8日(月)	総合福祉センター 201・202会議室	天候不良により中止になったため、再度の開催について検討、開催が決定
第6回	5月29日(月)	市民活動支援センター -「はばたき」	参加団体の確認、正副実行委員長及び世話人の選出
第7回	6月12日(月)	市民活動支援センター -「はばたき」	備品の確認、ブースの決定、チラシについて
第8回	7月3日(月)	市民活動支援センター -「はばたき」	最終確認
反省会	7月24日(月)	市民活動支援センター -「はばたき」	反省会

成果・反省点・課題

- * 参加全団体による実行委員会を立ち上げ、主体的な企画・運営を行っているが、一部の実行委員に負担がかかってしまっている。
- * テントなしでの開催だったため、天候不良により4月の開催が中止となった。今後、日程の変更や代替日の設定、テントの有無等についての検討が必要。

9 第15回菊野台ボランティアまつり

開催目的	菊野台地区で活動しているボランティアグループ、およびボランティア活動に関心がある人が一堂に会し、日頃の活動を紹介するとともに、相互交流をはかり、ボランティア活動に関する情報提供、および地域の人々への啓発を目的として行う。
日 時	平成18年5月28日(日)午前10時～午後3時
内 容	ボランティアグループの紹介(体験コーナー・折り紙・点字・車椅子)、模擬店、ミニバザー、外国人による日本語スピーチ)、情報交換、交流、啓発
会 場	菊野台地域福祉センター

参加者数	参加団体22団体 来場者約250名
運 営	菊野台ボランティアまつり実行委員会

10 菊野台地域福祉センター 交流のかけはし への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的にご利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活動発表を行う場として、財団法人コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成18年9月30日(土)、10月1日(日) 午前10時～午後3時30分
会 場	菊野台地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、相談コーナー

11 平成18年度富士見ふれあいのつどい(小地域交流事業を兼ねる) 再掲

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が実行委員として参加し、企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的としている。
日 時	平成18年6月17日(土)午前10時～午後3時
会 場	富士見地域福祉センター
内 容	舞台発表、模擬店、自主製品展示・販売、各種相談コーナー、ゲームコーナー 工作コーナー、参加型イベント
参加者数	参加団体30団体、個人2人、来場者450人
運 営	富士見小地域交流実行委員会

12 「うたごえ喫茶 IN 富士見」(平成18年度小地域交流事業) 再掲

開催目的	定期的に、老若男女問わず懐かしい唄を声を上げて歌うことで楽しみながら元気になれる場づくり。		
日 時	平成18年 4月15日 平成18年 5月20日 平成18年 7月15日 平成18年 8月19日 平成18年 9月 9日 平成18年 10月21日	平成18年 11月18日 平成18年 12月16日 クリスマス交流会 平成19年 1月20日 平成19年 2月17日 平成19年 3月17日	いずれも土曜日午後1時30分～4時
会 場	富士見地域福祉センター大集会室		
演 奏	ピアノ伴奏 佐伯恵美氏	参加費	300円(飲み物つき)
参加者数	延べ532人(各回平均 48人) 市内全域から参加の高齢者が昔を懐かしむように歌っている。		
運 営	富士見小地域交流実行委員会		

13 「富士見ボランティア交流会」(平成18年度小地域交流事業) 再掲

日 時	平成19年3月3日(土)午前10時～12時30分
-----	--------------------------

会 場	富士見地域福祉センター大集会室
内 容	富士見コーナーを拠点に活動している団体や施設との情報交換と交流
参加者	32人（スタッフ 5人）
予 算	小地域交流事業費(門前そば打ちクラブの手打ちそば)
運 営	富士見コーナー推進委員(世話人会)

14 第10回ボランティアまつり染地

開催目的	地域で活動するボランティア・市民活動団体、当事者団体、施設、地域のミニデイ・サロン、学校などが交流し、地域のボランティアの輪を広げる
開催日時	平成18年5月21日(日)午前10時～午後3時
会 場	染地地域福祉センター
内 容	10周年の記念イベントとして、まつりの「のぼり」やPR用風船の発注。および記念冊子を500部作成。活動紹介、交流、情報交換、模擬店、作品展示販売、バザー、相談コーナー
参加者数	参加団体33団体 来場者500人

15 染地ボランティア連絡会を発足

事業内容	個々で活動しているグループがお互いの活動を知り交流を深め、地域のネットワークづくりを目指して、H.18.9.5に発足 ボランティアまつり後、2ヶ月に1回開催
開催日時	第1回平成18年9月5日・第2回平成18年11月2日・第3回平成19年1月13日
会 場	染地地域福祉センター

16 緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい(第6回緑ヶ丘ボランティアまつり) 再掲

開催目的	ボランティアまつりと小地域交流事業を同時開催することによって地域の福祉施設、学校、児童健全育成団体、自治会、老人クラブ等、建設労組、まちづくりの協議会など多種多様なボランティア・市民活動団体が出会い、交流を行いながら地域福祉の向上をはかることを目的に開催。子どもとの交流を願い、児童館まつりと同日開催で実施。
日 時	平成18年10月15日(日) 午前10時～午後3時30分
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
内 容	活動紹介・発表、模擬店、手作り品販売、体験コーナー、京王マジッククラブの方によるマジックショー、ボランティア団体による手話ソング・合唱・バイオリン演奏等、高齢者会食、ふれあい給食、湯遊みどりの方々のコーラス・踊り、白百合女子大学生による人形劇、中・高生の和太鼓、日本舞踊、老人クラブによる緑樹サンバ等
参加者数	参加団体28団体、来場者328人

17 交流のかけはし・緑ヶ丘への参加

事業内容	地域福祉センターを定期的に利用している団体が年に1回一堂に会して交流し、活
------	---------------------------------------

	動発表を行う場として、財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団主催により開催。
開催日時	平成18年10月28日(土)、29日(日) 午前10時～午後4時
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
参加内容	コーナーの紹介、交流、リサイクルバザー、相談コーナー

18 ドイツ観光ポスター展（共催事業）

開催目的	F I F Aサッカーワールドカップ（以下、W杯）ドイツ大会を記念し、調布市でも盛り上げ、観光ポスターを通じて、ドイツを知っていただくため。 郷土博物館との共催により協働の可能性を探るため。
期 間	平成18年6月1日（木）～10日（土）午後5時
会 場	市民活動支援センター 展示スペース
正式名称	ドイツ観光ポスター展「ドイツ大好き！」
内 容	・ドイツ観光局所有の観光ポスターの展示。 ・枚数： 30枚程度 （A1、パネル入り、ポスター説明シート） 全部で78枚
協 力	F C東京、調布F M、182ch、特定非営利活動法人ちょうふどっとこむ
後 援	調布市、調布市国際交流協会、ドイツ大使館、ドイツ観光局
共 催	調布市立郷土博物館
主 催	調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター

成果・反省点・課題

- * 前年度に開催した「スポーツカフェStadtmitte～もっとドイツを知ろう～」では、「2005/2006日本におけるドイツ年」を記念して人的・文化的交流をメインに行った。今回は、F I F AサッカーW杯ドイツ大会が本番を迎えるにあたり、ドイツ関連イベント第2弾として、ドイツ観光局所蔵の「ドイツ観光ポスター展『ドイツ大好き！』」を実施した。これは日本の全国各地を期間限定でまわっているもので、ドイツのシンボリックな風景や人々の歴史が分かる内容から珍しいイラストの作品30点ほどをピックアップし、展示した。さらに、日本代表ジーコ監督（当時）のサイン色紙やF C東京所属の土肥選手らのサイン入りグッズの展示も行なうことができた。これは様々な方のご協力により調布市全体で盛り上げていこうと、調布市立郷土博物館と共催で企画し、実施したものである。

4 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなどさまざまな目的に応じてスペースを貸出し、その運営管理を行った。

市民活動支援センター(国領)来館者およびはばたき利用状況

来館者数推移

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	2,019人	2,155人	2,513人	3,214人	2,069人	2,443人
一日平均	69.6人	71.8人	86.7人	107.1人	69人	84.2人
前年度同月比	152%	129%	139%	141%	106%	117%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	2,123人	2,321人	1,827人	1,869人	2,261人	2,461人
一日平均	70.8人	80人	67.7人	69.2人	83.7人	82人
前年度同月比	91%	104%	102%	132%	81%	107%

活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者数	1,564人	1,665人	2,052人	2,435人	1,734人	1,981人
一日平均	53.9人	55.5人	70.8人	81.2人	57.8人	68.3人
前年度同月比	279%	173%	168%	149%	131%	132%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者数	1,822人	1,754人	1,523人	1,482人	1,991人	2,093人
一日平均	60.7人	60.5人	56.4人	54.9人	73.7人	69.8人
前年度同月比	130%	112%	111%	115%	114%	119%

年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総数】

	17年度	18年度	増減率
来館者数	24,020人	27,275人	114%
利用者数	16,317人	22,096人	135%
相談件数	290件	164件	57%

相談件数の減について。

相談件数のカウント方式変更によるもの。前年度と比べると、相談として捉える内容について

整理(簡易なものはず)した。しかし、必要なデータが落ちている面もあり、課題発見や事業の企画立案に際して、有効なデータを正確に蓄積していく方法を今後検討していく。

【利用内訳】

	17年度	18年度	増減率
活動	1,080件	1,755件	163%
会議、打ち合わせ	547件	757件	138%
パソコン利用	2,337件	3,823件	164%
学習	567件	1,429件	252%
その他	534件	384件	72%
展示	21件	14件	67%

ブランチ活用状況

拠 点	スペースの活用状況		来所者数	
	件 数	一日平均	人数	一日平均
小島町コーナー	728件	2.2件	5,516人	16.4人
菊野台コーナー	795件	6.2件	2,859人	20人
富士見コーナー	286件	2件	2,656人	18人
染地コーナー	474件	3.5件	5,010人	36.6人
緑ヶ丘コーナー	185件	1.4件	1,712人	12.6人
合 計	2,468件	3.1件	17,753人	20.7人

メールボックス、ロッカーの貸し出し(国領)

活動室内に設置されているロッカーおよびメールボックスを希望する市民活動団体に貸出し、その運営管理を行った。

メールボックス利用件数	40件
ロッカー利用件数	64件

2 ボランティア保険・行事保険の加入受け付け

ボランティア保険への加入促進の呼びかけと加入手続きの事務を取り扱った。

ボランティア保険加入者数(通年保険・受付随時)		3,380 人	
行事保険加入件数	A型(日帰り行事)	561 件	16,291 人
	B型(宿泊行事)	14 件	318 人

3 無線 LAN スポット運営(小島町)

16年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター 2階フロアに設置。これにより活動室、会議室、交流スペースなど 2階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になっている。

サービス名：Free Spot (フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社)

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で利用規約および利用登録申請書入手。(あるいはホームページよりダウンロード)規約に同意し、申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、利用マニュアルを参照して各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- * 利用登録者数 55 人。個人利用のほか、会議室等利用者で視覚障害者を対象としたパソコン講習会や、障害者・高齢者対象のパソコン学習会の実施に際して利用されていることが多い。
- * フリースポットを設置しているという情報が広まった上、調布駅前に位置する利便性から市民活動とは無関係の人たちの利用が目立つ。また、継続して利用しているというより、その時限りの利用者が多い。

4 無線 LAN スポットの設置・運営(国領)

センターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを市民活動支援センター活動スペースはばたきに設置。これによりセンター内 O A コーナーだけでなく、市から貸与されたノートパソコン及び、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能になった。

サービス名：Free Spot (フリースポット協議会提供・バッファロー株式会社)

方式：IEEE802.11b

利用方法：窓口で申請書に必要事項を記入して提出。ESSID(SSID)と暗号化キー(WEP)を受け取り、貸し出し用パソコンまたは各自持ち込みのパソコンに設定して利用する。

成果・反省点・課題

- * フリースポットの運用自体は、トラブルもなくスムーズにおこなわれているが、市から貸与されたノートパソコン(貸し出し用)が、経年劣化により、使用に耐えない状態となってきた。

5 電話対応代行サービス(国領・有料サービス)

平成 17 年度より、市民活動団体の支援サービスとして、活動やイベント・講座等に関する問い合わせ、受け付けの電話対応代行サービスを実施している。

利用料金	1,000 円 / 月 (サポーター会員は 800 円 / 月)
利用団体数	平均月 4~5 団体 (通年利用 3 団体、そのほかスポットで 6 団体)
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の活動に関する問合せ応答代行 ・ 行事、講座などへの内容照会および参加申込受付代行

成果・反省点・課題

- * 前年度に比べ利用団体は倍増し、1ヶ月3団体から最大で7団体の利用があり、市民団体・ボランティア団体などにとっては利便性のあるサービスとなっている。大規模で長期的なイベントについては、幅広い問い合わせ内容に対して迅速な対応が困難な状況もあり、今後の代行サービスを行う際の検討課題となった。

6 市民団体向け IT 講座

ボランティア・市民活動団体に所属する市民を対象とし、

インターネットの基本操作を通じての安全・効率的な情報の受発信と市民活動支援センターのホームページの登録団体増加・活用度の向上

ワープロソフト・表計算ソフトの基本的操作を通じての市民活動団体の IT 技術活用機会増大として、市民活動支援センターの利用者増加

を目的として、市内のボランティアネットワーク「やあやあネット」主催の市民団体向け IT 講座に調布市とともに共催した。

期	開催日	参加者数	スタッフ (やあやあネット)
第1期(全5回) 18:30-20:30	平成 18 年 7/14、21、28、8/04、11	6人	7人
	会場:活動スペースはばたき		
第2期(全5回) 18:30-20:30	平成 18 年 9/08、15、22、29、10/06	8人	3人
	会場:活動スペースはばたき		
第3期(全5回) 18:30-20:30	平成 18 年 10/27、11/10、16、24、30	8人	5人
	会場:活動スペースはばたき		
第4期(全5回) 18:30-20:30	平成 19 年 1/17、24、31、2/07、14	9人	3人
	会場:活動スペースはばたき		
復習サロン 18:00-20:00	平成 19 年 3/14、20、27	平均4人	3人
	会場:活動スペースはばたき		

成果・反省点・課題

- * 活動の紹介や新規メンバーへ勧誘のために市民活動支援センターのホームページを活用するこ

とができるということを確認してもらおうと同時に、講座に参加した団体同士での交流が生まれた。

- * 昨年度の要望に基づき、ホームページの活用方法だけでなく、ワープロソフトや表計算ソフトなど事務役に役立つ IT 講座も行った。
- * 市民活動支援センターの市内ブランチのコーディネーターも今回参加し、操作の確認をすると共に、参加した団体とのネットワークが生まれた。
- * 市から貸し出されたパソコンの老朽化によりインターネットの講座時には調布市と、電気通信大学 T L O であるキャンパスクリエイトの協力でパソコンの貸与を受けた。来年度以降は内容に応じて最も適した会場での講習を検討していきたい。

7 NPO 法人設立・運営に関する講座

社会課題の解決に取り組むべく、組織的に活動する NPO 団体の活動を支援し、あたらしい活動、あたらしい団体の誕生を支援することを目的として NPO 会計講座、NPO 法人設立、運営に関する講座を開催する。18 年度は助成金申請のポイントテーマとしてとりあげた。

えんがわマネー講座「オニはソト！カネはウチ！
～助成金申請のポイントを学ぼう～」

日 時	2月3日(土)午後1時30分～4時	費 用	2000円/名
会 場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	16人
講 師	熊谷 紀良氏(東京ボランティア・市民活動センター主任) 東郷 琴子氏(松下電器産業株式会社 社会文化グループ)		
内 容	挨拶、アイスブレイキング、講義 テーマ「ユメをカタチにするために - 助成金申請の基礎 - 」、講義 テーマ「助成企業の視点」、グループワーク(助成金申請書例をもとにコツを学ぼう)、各グループの発表、講師より講評、まとめ		

成果・反省点・課題

- * 本講座では、参加動機が「助成金の申請経験があり、申請のコツを知りたい」「助成金の申請書の書き方を知りたい」「助成金の基礎を学びたい」という3つのいずれかに収まり、事前に実施した参加者アンケートの甲斐もあって、ニーズは把握出来ていたと考える。また、講師の選定に関しても、助成企業の視点と助成金希望者支援機関の相談事例を交えたアドバイスを行っていただくことができ、参加者の反応から漠然と助成金申請を考えている方へ情報提供する、という目的は達成できたように思う。しかし、助成金申請書作成のワークでは、時間配分やファンド例の準備不足も相まって、不満の声も聞こえた。ただ、その中でも異なる団体のスタッフ同士が、ディスカッションを通して、一丸となり、知恵を出し合う機会を作れたことは大変貴重だったのではないかと、思う。今後は、テーマ設定と時間配分を考慮しつつも、更に発展させた形で、プレゼンテーション方法を学ぶ機会も設定していきたい。

NPO 設立・入門講座

日時	3月3日(土)午後1時30分～4時	費用	500円(資料代)
会場	市民プラザあくろす会議室1	参加人数	26人
講師	東京ボランティア・市民活動センター専門員 池澤良子氏 NPO法人市民活動推進協会専務理事 横山泰治氏		
内容	NPO法の解説、法人化の意義、申請上の注意点、必要な実務、NPO法人として活動している団体の体験談		

成果・反省点・課題

- * 過去に実施した同様の講座に比べて、今回はシニア男性の参加が多かった。また、その参加理由も「新しく団体を立ち上げたい」「NPOに興味がある」といったものが多く、参加者ニーズの変化を感じた。
- * こうしたニーズに対応するため、今後はコミュニティビジネス等と連動した講座を企画・実施していきたい。
- * 18年度はNPOに関する講座を2回しか開催することができなかった。19年度は設立講座に加え、会計・労務などの実務講座やマネジメント講座などを実施したい。

8 使用済み切手、カード類の回収

「使用済み切手、カード類」の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付・回収された切手・カード類は、ボランティア団体の協力により整理され、年5回換金した。

種類	売上げ金額	換金日	備考
カード類	18,565円	平成19年1月12日	テレホンカード @38,220g×25銭 その他のカード @180,200g×5銭
	17,870円	平成19年3月8日	1キ口あたり200円
切手類	14,600円	平成18年7月28日	記念切手 @700×16 ^キ 外国切手 @500×6.8 ^キ
	142,690円	平成18年9月4日	@500×119.6 ^キ 束ね 82,890円
	26,070円	平成18年12月23日	
合計金額	219,795円	計5回	

9 市民活動団体助成事業「えんがわファンド」の実施

17年度まで行っていた「児童・生徒のボランティア活動普及事業」を発展させ、18年度より新

規事業として立ち上げた。幅広い分野の市民活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

(1) 選考

選考委員会の開催状況

開催日	8月29日(火)
会場	市民活動支援センター「はばたき」
内容	各団体から提出された申請書により、助成団体を選考 応募団体26団体(1団体辞退)のうち、11団体に助成決定

選考委員 (敬称略・50音順)

金子 日出澄	市民活動支援センター長
瓦林 紀子	調布 WAT 代表
熊谷 紀良	市民活動支援センター運営委員、東京ボランティア・市民活動センター
坂間 元明	市民活動支援センター運営委員長
山口 昌之	市民活動支援センター副運営委員長
和田 敏明	市民活動支援センター運営委員、ルーテル学院大学教授

(2) 助成団体 計11団体 助成総額 446,700 円

	団体名	助成額(円)	内容
1	調布の自然学習ボランティア	50,000	総合的な学習の時間における環境学習サポート事業
2	調布市立第二小学校	30,000	児童のボランティア活動(特別養護老人ホーム訪問)
3	グループあい	31,700	地域情報誌の音訳ボランティア活動
4	スペース・クッション	30,000	精神障害者及びその家族への支援、居場所の提供
5	三小・お花畑の会	30,000	学区域の福祉施設や図書館等への、寄せ植えプランター贈呈活動
6	布田崖線緑地を考える市民の会 (新名称:凸凹森の会)	45,000	布田崖線緑地の保全活動
7	DADA: アフリカと日本の開発のための対話プロジェクト	50,000	アフリカ連続理解講座の実施
8	バリアフリー映画鑑賞推進団体 City Lights	50,000	バリアフリー訪問映画上映会、視覚障害者へのニーズ調査

9	調布市立富士見台小学校	30,000	児童のボランティア活動(特別養護老人ホーム訪問)
10	特定非営利活動法人 ちょうふどっとこむ	80,000	市民団体の活動に役立つ地域情報 発信活動
11	調布市立染地小学校	20,000	児童のボランティア活動(ユニセフ街 頭募金)
合 計		446,700	

(3) 交流会 平成19年度に実施

日 時	平成19年4月14日(土)午後2時～4時
会 場	市民活動支援センター「はばたき」
内 容	助成団体による報告、選考委員による講評、交流会
参 加 者	34人

成果・反省点・課題

- * 一団体10万円、総額45万円という、他助成金と比較して小規模な助成金だったが、地域に根ざした活動を行っている多くの団体から応募があった。
- * 市民活動支援センター運営委員やスタッフが直接団体の活動を見に行き、話を伺ったことで、助成団体とセンターとの「顔の見える関係」をつくることができた。
- * 今後、市民や企業からの寄付を原資に助成を行う「市民ファンド」としての確立・運用を目指す。

10 NPO・市民活動団体への情報ペーパー「エンガワンク」配布

NPO・市民活動団体が日々の運営や活動において、共通の質問や課題としている内容を、A5サイズの紙にまとめた「エンガワンク」を配布した。栄養ドリンクのように見えるパッケージの裏側に、今年度は「会議」、「イベント」、「広報」をテーマに、

「総合編」・・・テーマにおけるセオリーや基本的な知識・考え方についての情報補助

「地域情報編」・・・テーマについての調布ならではの情報をピックアップして紹介

「グッズ編」・・・テーマごとのあると役立つ備品を「七つ道具」として案内

以上のように分けて情報提供を行った。

さらに、役立つ情報を募集できるよう、現在製作中のテーマでは情報募集も行った。

その他にも、ユーモアの為のボランティア川柳(ボラ川)や、基本用語の説明『効く！ボランティア用語』、センター利用団体の紹介をする『グループピックアップ』、雑学的な知識を紹介する『トリビアのえんがわ』も欄外に掲載し、手に取った方が読みやすく、継続して読んでいただけるように配慮を行った。

内容 テーマ	総合編	地域情報編	グッズ編
会議で悩んで いませんか？	活発な会議とは？ 【内容】	会議しやすい施設とは？ 【内容】	会議上手のグッズとは？ 【内容】

	進行についてのアイデア等 【配布数】 約120部	市内の会議可能施設紹介 【配布数】 約100部	会議事に使えるグッズ紹介 【配布数】 約100部
イベント成功 していますか？	成功するイベントとは？ 【内容】 イベント企画時の注意点等 【配布数】 約120部	市内のイベント施設は？ 【内容】 市内の屋外施設紹介等 【配布数】 約100部	イベントお役立ちグッズとは？ 【内容】 用意しておく便利なグッズ 【配布数】 約100部
広報は上手に されていますか？	伝わる広報とは？ 【内容】 広報のアイデア等 【配布数】 約120部	調布で広報するには？ ～ 作成中～	使える広報グッズとは？ ～ 作成中～

成果・反省点・課題

- * A 5 一枚で読み易くまとめてあることから、市民活動支援センターの利用者の多くに呼んでもらうことができた。
- * テーマによっては続編が必要なものもあることから、今年度のテーマを大テーマとし、さらに個別のテーマにも今後情報提供を広げていきたい。

5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 専門家による高齢者・障害者世帯の無料家具転倒防止工事の受付

災害時の家具転倒対策が自力では難しい高齢者・障害者世帯を対象に、建築職人の組合「東京土建」が無料で実施する、家具転倒防止工事の広報と受付を行った。

実施日時	10月1日(日)午前10時～12時
対象者	市内在住の高齢者(65歳以上)・障害者のみの世帯
内容	一室分の家具の転倒防止金具の取り付け作業
工事件数	13件
料金	一部屋に限り無料
広報	ふくしの窓9月1日号、調布市報9月5日号にて広報
主催	東京土建一般労働組合調布支部

成果・反省点・課題

- * 阪神・淡路大震災では、犠牲者の80%以上が家具による圧死との事例があり、家具転倒防止工事は有効な防災手段となっている。しかし、高齢者や障害者のみの世帯では対策をとることが難しいため、そうした方々を対象に、工事を無料で行っていることは非常に有意義なことだと思われる。
- * 今回は定員(20件)を下回る申込みであった。その原因として、当事業があまり知られていないこと及び大きな災害がないと申込みが少なくなる傾向があることが考えられる。今後、当事業の高齢者や障害者のみの世帯への周知方法とともに、災害に対する日頃の意識をどう持ってもらうかについても考えていきたい。

2 調布市総合防災訓練への参加

いざというときの対応に備えるシミュレーションとして、調布市が実施する調布市総合防災訓練に参加、災害時のボランティア受付やニーズ調査等を想定した訓練を行った。

実施日時	8月27日(日)午前8時30分～11時30分
会場	調布市立第四中学校
参加内容	災害ボランティアの受入れ及びコーディネート訓練、避難住民要望調査、救援物資配布訓練
受付ボランティア数	27人
避難住民要望調査人数	169人(調査結果を調布市総務部防災安全課へ報告)
救援物資配布受付件数	36件
協力	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会

成果・反省点・課題

- * 大規模災害時に社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターを設置することを想定し

て参加したが、実際の災害時に対応した訓練とまではいかなかった。

- * 様々な関係機関が参加していたが、連携につながる動きがなかった。今後の課題として、大規模災害に対応できるように、平常時から他機関と「顔の見える関係」づくりを進める必要がある。

3 避難所体験講座の実施

市民に災害への意識をもってもらうことを目的に、調布災害時ボランティア・コーディネーターの会と共催で避難所体験講座を実施した。

事業名	災害市民講座「体験してみませんか？避難所生活！」
実施日時	2月25日（日）午前9時45分～午後1時30分
会場	調布市立布田小学校
内容	防災備蓄倉庫の見学、濾水器・簡易トイレ・発電機・非常食試食体験、段ボール間仕切り・照明（ほのぼのあかり）作成
参加者数	51人
主催	調布災害時ボランティア・コーディネーターの会
協力	調布市、調布市立布田小学校

成果・反省点・課題

- * 調布災害時ボランティア・コーディネーターの会との共催で今回初めて実施したが、参加者からの反応は非常に好評であった。「違う地域で実施してほしい」との声もあったので、今後も市内各地域で実施できるように企画する。
- * 布田小学校地域の住民をメインターゲットとしていたが、地域外からの参加も多数あり、関心の高さを実感した。

4 やあやあドリームオールスターズ「こどもあそび博覧会4」実施協力

学校と地域の連携を深め、「地域で子どもを育もう」という視点で、市民活動団体が中心となって実行委員会を立ち上げ開催したイベントに共催した。

市民活動団体や個人が、体験型・参加型のさまざまなブースを設け、親子や友達同士また地域の人たちとふれあいながらいろいろな気づきを得られることを目的として実施。

日時	平成18年10月1日（日）午前10時～午後3時
会場	調布市立布田小学校
来場者数	子ども 760人、大人（保護者、教員等） 500人 合計 1260人
参加団体数	35団体
主催	やあやあドリームオールスターズ2006実行委員会
共催	やあやあネットワーク、社会福祉法人調布市社会福祉協議会、武蔵府中法人会青年部会、社団法人調布青年会議所
協力	調布市立布田小学校、同PTA・健全育成推進委員会・学校開放委員会
協賛	調布市、東京電力株式会社武蔵野支社、キューピー株式会社仙川工場
後援	調布市教育委員会

参加団体一覧

参加内容	団体名
折り紙博士 ～折り紙で楽しくあそぶ！～	折り紙博士
おもちゃの病院	電気通信大学 おもちゃの病院
フラワーアレンジメント	セラピーサークル マダムポアン
救急・防災フェア 2006	社団法人調布青年会議所
点字体験コーナー	菊野台点字サークル
木島平村の自然素材を活かした体験	長野県木島平村
手話体験	手話サークル くすの木
自分だけのキーホルダーをつくろう	やあやあネットワーク
どんぐりを植えよう	NPO地球の緑を守る会 Chofu (現： ボランティア ドングリの森)
炭やフルーツをつかった電気実験	東京電力株式会社 武蔵野支社
作ってみよう！木・竹の笛、竹玩具、草細工	調布の自然学習ボランティア
アルファ米を食べてみよう	調布災害時ボランティアコーディネーターの会（調布SVC）
ニュースポーツの紹介	調布市体育指導委員会
サッカーボールと友達になろう！	FC東京
わら縄で遊ぼう	特定非営利活動法人市民活動推進協会 野遊びくらぶ
パソコンでお絵描き	特定非営利活動法人 do be くらぶ
使用済みわりばしの回収	わりばしリサイクルグループ くるりん
出前講座 車イス体験コーナー&スルーネットピンポン	市民活動支援センター小島町コーナー&さるすべり
パソコンで名刺を作ろう	印刷工房 めじろ作業所
ラムネ作り、天才亀さんと遊ぼう、天文教室、スーパーライトグライダー	特定非営利活動法人全国教育ボランティアの会

スーパー紙トンボを作って飛ばそう	鎌形 武久氏
あそんで・まなぼう！	調布少年少女センター
レッツ アラビア！アラビア語を書いてみよう！	調布サウディアラビア友好会
小さな「クリスマスリース」キーホルダー	あむあむサークル
『こども大工さんコーナー』	首都圏建設産業ユニオン調布支部
テラキラキラ ～火山灰の中から宝石を探そう	寺子屋教室
演奏	調布市立第三中学校吹奏楽部
つくってあそぼ！	障害を負う人々・子どもたちと「共に歩む」ネットワーク
オーラ！ボンジュール！多言語で遊ぼう	言語交流研究所ヒッポファミリークラブ調布支部
多摩川ガサガサ水辺の移動水族館	株式会社建設技術研究所環境教育部 ガサガサ水辺の移動水族館
模擬店	調布市立布田小学校 P T A 開放、同健全育成推進委員会布田地区

(順不同)

実行委員会開催状況

回数	実施日	会場	内容
第1回	4月18日(火)	市民活動支援センター	開催概要及びそれまでの事前折衝経過説明、実行委員会組織並びに役員について、今後のスケジュール
第2回	5月24日(水)	市民活動支援センター	役員および担当協議、参加団体募集方法の検討、準備スケジュール
第3回	7月28日(金)	市民活動支援センター	参加団体の確認、当日参加者募集のチラシ・ポスター(案)の発表および選定、資金調達方法の検討、今後のスケジュール調整・確認
第4回	9月8日(金)	市民活動支援センター	経過および事務折衝等説明、チラシについて説明・確認、ブースの配置について説明・確認、前日・当日の準備の流れについて説明・確認(・借用備品の確認・

			搬出入の注意事項・お弁当の注文数)、 予算配分の確認
第5回	9月21日(木)	市民活動支援センター	校庭・教室の会場配置、予算案、チラシ 案参加ブース配置確認、設営備品発注確 認、各ブース事業予算、前日及び当日の 設営、撤収スケジュール、開会セレモニ ー実施案、スタンプラリー及び景品配布 について、昼食発注確認、当日までの準 備スケジュールの確認
第6回	10月20日(金)	市民活動支援センター	反省会

成果・反省点・課題

* 今まで4回開催してきた「やあやあドリームオールスターズ2006(以下、YDAS2006)」だが、今回、最多の来場者数を迎えることとなった。その上、昨年度実施した富士見台小学校の児童が今年度も参加してくれるというリピーターができたことは、子ども達にとって、ここでの経験・体験の大きさを感じることができた。しかし、課題も見えてきた。本事業は単年度ごとに地域を実施していることもあり、これを機会に地域のつながりをさらに継続的なものにできるかどうか、ということの他に、各団体にとっては、毎回、ほぼ同じ内容で実施するため実行委員会のマンネリ化が見受けられた。それとともに、事務局機能の安定が求められる。今回、事務局メンバーをその方が参加していない会議で決めてしまったこともあり、温度差が出てしまったように感じる。せつかく、地域に浸透しつつあるこの素晴らしい企画を継続させる為にも、積極的な見直しや意見交換の活発化を目指していかれたらと思う次第である。

5 調布ボランティア連絡会の開催

調布ボランティアまつり参加団体を中心に、団体間の情報交換や交流を目的に隔月に実施した。

11月3日には、調布市市庁舎前庭でプレボランティアまつりを開催した。

(1) 開催状況 定例会4回

開催期日	内 容
7月24日(月)	ボランティアまつり反省会、ボランティア連絡会の今後の予定について
8月28日(月)	世話人の人選、今後の連絡会の企画について プレボランティアまつりについて
10月16日(月)	世話人の紹介、今後の連絡会の運営について プレボランティアまつりについて 活動紹介(なごみ茶屋)
12月11日(月)	活動助成金について

	<p>第27回調布ボランティアのまつり（平成19年度）について 第27回調布ボランティアのまつり第1回実行委員会開催 以降、調布ボランティアまつり実行委員会に移行</p>
--	---

（2）プレボランティアまつり

調布ボランティア連絡会参加団体を中心に、活動資金の獲得を目的としてバザーを開催した。

開催日時	平成18年11月3日（金）午前9時～午後2時30分
会場	調布市市庁舎前庭
内容	バザー

参加団体 6団体

No	団体名
1	調布W A T
2	二葉学園
3	調布市登録手話通訳者の会
4	ひまわりグループ
5	深大寺人と緑と犬の会
6	障害を負う人々・子ども達と「共に歩む」ネットワーク

成果・反省点・課題

- * 定期的に連絡会を開催することで、ボランティア・市民活動団体の顔がつながり、連携が深まっている。
- * 市民活動団体すべてに、「調布ボランティア連絡会確認シート」を配布し、改めて連絡会への参加確認をした結果、参加団体の増加につながった。

6 菊野台ボランティア連絡会の開催

菊野台コーナーを拠点に活動しているボランティアの交流や情報交換を目的に2ヶ月に1回開催した。また、菊野台コーナーを拠点に活動しているグループを紹介する冊子の「増刷版」作成にも取り組んだ。

成果・反省点・課題

- * 連絡会で前回発行された冊子が、好評で更新増刷。グループ育成、参加の方法を探った。

7 緑ヶ丘協力委員会の開催

緑ヶ丘コーナーを支援し、コーナーとともに地域の福祉活動を推進することを目的に開催した。

開催回数 3回 参加人数 延べ19人

成果・反省点・課題

- * 皆さんの予定がなかなか合わず、出席者が少ない時もあった。立ち上げ時期から6年以上の月日がたち、当初の目的の協力委員会という立場ではなく、ボランティア団体の連絡協議会という形に移行しようということで、発展的解消を決定した。

8 北多摩南部ブロック(調布・府中・三鷹・小金井・狛江)ボランティア・市民活動センター共催事業の実施

他地区センターと事業共催することにより連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的に多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。狭義の福祉活動に特化せず、幅広い地域の課題に取り組むセンターに変えていくために、環境(平成14年度、15年度)や国際交流(平成12年度、13年度、16年度)、NPOマネジメント講座(平成17年度)を実施した。

18年度は、19年度から始まる都立高等学校の奉仕体験活動必修化についてのフォーラムを開催した。

(1) 北多摩南部ブロックボランティア担当者連絡会開催状況

回数	日時	会場	参加者	内容
第1回	9月7日(木) 午後6時～8時	狛江市あいとぴあセンター	10人	共催事業の検討、情報交換
第2回	10月19日(木) 午後6時30分～8時	狛江市あいとぴあセンター	5人	共催事業の検討
第3回	11月9日(木)午後6時 30分～8時30分	狛江市あいとぴあセンター	7人	共催事業「奉仕体験活動」について
第4回	12月14日(木)午後6 時30分～8時30分	狛江市あいとぴあセンター	8人	共催事業「奉仕体験活動」について
第5回	1月23日(火)午後6時 30分～8時30分	三鷹駅前コミュニティセンター	9人	共催事業「奉仕体験活動」について

(2) 共催事業

事業名	フォーラム「誰だって初心者！知りたい奉仕体験活動」		
日時	2月16日(金)午後1時～5時	参加者数	54人(内訳:都立高等学校の教諭など教育関係者、ボランティア受入団体、ボランティア・市民活動センターのコーディネーターなど)
会場	三鷹駅前コミュニティセンター 中会議室		
参加費	無料		
内容	講話「学校で学べない体験・参加をつくるために」 常磐大学コミュニティ振興学部 教授 池田幸也氏 都立高等学校 事例発表		

	<p>各校での取り組みの現状、その方法、地域との関わりなどの紹介</p> <p>ア 都立第五商業高等学校 藤田豊氏</p> <p>イ 都立松が谷高等学校 副校長 有馬利一氏</p> <p>ボランティア受入れ団体 活動報告</p> <p>高齢、子ども、障害、国際支援、環境の各分野で活動する団体より、団体紹介およびボランティア受け入れ状況などについての報告、説明</p> <p>ア 介護老人保健施設ファミリート府中（府中市） 黒木勲夫氏</p> <p>イ 小金井市子ども家庭支援センター（小金井市） 宮澤陽子氏</p> <p>ウ 三鷹ひまわり第二共同作業所（三鷹市） 山口眞二氏</p> <p>エ 特定非営利活動法人 ESA アジア教育支援の会（狛江市） 太田博之氏</p> <p>オ わりばしりサイクルグループ「くるりん」（調布市） 岡田登氏</p> <p>分科会「みんなで考える活動につながる地域のレシピ」</p> <p>高齢関係（ファミリート府中）、子ども関係（小金井市子ども家庭支援センター）、障害関係（三鷹ひまわり会）、国際関係（ESA アジア教育支援の会）、環境関係（わりばしりサイクルグループ「くるりん」）、以上5グループに分かれ、討議を行った全体会</p> <p>分科会で話し合われたことを、グループ毎に発表</p> <p>講評および質疑応答</p> <p>常磐大学コミュニティ振興学部 教授 池田幸也氏</p>
--	---

成果・反省点・課題

- * 19年度より始まる都立高等学校の奉仕体験活動について、教育・受入団体・中間支援組織の三者が一堂に会して意見交換することができた、いい機会となった。
- * 参加者アンケートには、「今後の授業に活かそう」「また開催してほしい」といった声が多く聞かれた。
- * 今回のフォーラムを、今後各都立高等学校で実施される「奉仕体験活動」にどうつなげていくかが課題。

6 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネート機能を強化し、市民の主体的な活動を支援した。

ボランティア団体及びボランティア登録状況

拠 点	登録団体		個 人
	団体数	構成メンバー数	
小島町コーナー	110団体	4,785人	394人
菊野台コーナー	22団体	2,720人	10人
富士見コーナー	11団体	165人	65人
染地コーナー	17団体	160人	29人
緑ヶ丘コーナー	6団体	80人	45人
合 計	166団体	7,910人	543人

相談業務及びコーディネート事業

拠点	相談件数	ニーズ受付件数		対応件数	対応人数
		個 人	団 体		
小島町コーナー	1,508件	個人	1,177件	1,075件	1,075人
		団体	146件	120件	345人
菊野台コーナー	88件	個人	53件	45件	55人
		団体			
富士見コーナー	53件	個人	42件	35件	46人
		団体			
染地コーナー	148件	個人	38件	32件	71人
		団体			
緑ヶ丘コーナー	47件	個人	12件	12件	18人
		団体	6件	5件	10人
合 計	1,844件	1,474件		1,324件	1,620人

成果・反省点・課題

- * 個人からの依頼では、保育、児童の送迎など継続的、日常的にサポートが必要なボランティアニーズが引き続き増加する傾向にある。
- * 施設・団体では、ボランティア相談員を配置し、以前紹介したボランティアに対し、市民活動支援センターを介さず、直接、依頼相談をするケースが増えた。そのため、施設・団体からの依頼件数が減少する傾向にある。

2 困難な課題を抱える女性のためのIT講座の運営協力

DV被害や幼児期の虐待体験、外国籍や母子家庭など、さまざまな困難な課題を抱えて

いる女性を対象にパソコンの基礎技術を指導し、社会参加と自立への支援を行う、企業人ボランティアグループの活動支援を行った。

主催：東京ボランティア・市民活動支援センター、協力：IT ボランティアネットワーク

開催日時	第一期	4月9日, 4月16日, 4月23日, 4月30日, 5月14日, 5月21日, 5月28日 (全7回) 午前10時～12時 午後1時～3時
	第二期	7月2日, 7月9日, 7月23日, 7月30日, 8月6日, 8月20日, 9月3日, 9月10日 (全8回) 午前10～12時 午後1～3時
	第三期	10月1日, 10月15日, 10月22日, 10月29日, 11月12日, 11月19日, 11月26日, 12月3日 (全8回) 午前10～12時 午後1～3時
	第四期	1月21日, 1月28日, 2月18日, 2月25日, 3月11日, 3月25日 (全6回) 午前10～12時 午後1～3時
内 容	ワードコース	ワードの基礎を中心に応用とインターネットの習得
	エクセルコース	エクセルの基礎を中心に応用とインターネットの習得
参加者数	講座参加者延べ80人(各コース10人) 指導・環境ボランティア20人 保育ボランティア15人	

成果・反省点・課題

- * 温かい雰囲気の中で個々のレベルに合ったパソコン学習ができるため、参加者の中には1コースが終了すると次のコースに参加し、継続して習得する女性も多く、就労意欲や自立へ向けての支援が行われていた。特に保育が整って安全・安心に配慮した状況で受講できることやボランティアの協力体制は参加者を支える大きな力となった。
- * 来年度については、ボランティア募集やハード面の支援だけではなく、ITボランティアネットワークと共にハローワーク・市内各施設と連携して参加者へのきめ細かな対応と支援を行う。

3 子育て支援・ひまわり (緑ヶ丘コーナー)

開催目的	健康な心を取り戻すため 辛い気持ちなどの分かち合い 育児に関するアドバイス
開催日	通年 8月と12月を除く、毎月2回開催(火曜日) 4月4・18日 5月2・16日 6月6・20日 7月4・18日 9月5・19日 10月3・17日 11月7・14日 1月9・13日 2月6・20日 3月6・13日

内 容	おしゃべりをしながら、惣菜やパンケーキ・クッキーなどを作り、楽しむ。 作ったものを試食しながら、話を聴きだし、問題点についてアドバイスをしたり育児相談に対応したりする。
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
参 加 者	延べ 53 人
講 師	子育てアドバイザー 船山 和子氏
支 援	社会福祉法人 三社会 緑ヶ丘保育園

7 人材育成, 学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

小・中高等学校ですすめられている「総合的な学習の時間」に対応した。

出前回数	52回	出前先	小学校	37回
受講生	延べ4,118人		中学校	8回
派遣スタッフ	延べ161人		高等学校	2回
			その他	5回
開催講座数	157講座・・・手話38講座・視覚障害者ガイド40講座・点字35講座 車いす44講座			

福祉まつりにて体験コーナーを実施した。

開催日	平成18年12月2日(土) 午前10時～午後3時
会場	調布市役所前庭
協力スタッフ	車椅子 3人、手話 14人、点字・アイマスク 6人
来場者数	375人

2 調布サマーボランティア'06

青少年(概ね13歳～30歳)を対象に、夏休み期間を利用したボランティア活動体験を実施した。活動体験の受け入れ先は、市内および都内の福祉施設、社会教育施設や市民活動団体など。東京ボランティア・市民活動センターとの共催により、都内他地区ボランティア・市民活動センターとも連携し、幅広い地域から訪れる活動体験希望者と受け入れ先との調整を行った。

受け入れ団体施設	57団体 ・ 72プログラム	内 訳	
		・高齢者関係	15団体 16プログラム
		高齢者施設	9団体
		老人クラブ	2団体
		ボランティアグループ	2団体
		社協関係団体	2団体
		・障害者(児)施設	21団体 32プログラム
		障害者施設	13団体
		障害児施設	6団体
ボランティアグループ	2団体		
		・児童関係	12団体 15プログラム

		児童養護施設 0 団体 児童館・学童クラブ 6 団体 保育園 6 団体 ・海外協力 1 団体 1 プログラム ・環境関係 2 団体 2 プログラム ・その他の団体 6 団体 6 プログラム 図書館 1 館 市役所 0 課 NPO法人 5 団体
参加者人数および活動先別人数内訳	参加者総数	235人(男性 109人 女性 126人)
	年齢層内訳	小学生 0人 中学生 206人 高校生 23人 大学生 6人 専門学校生 0人 社会人 0人
	活動先別内訳	高齢者関係 64人 障害者(児)関係 56人 児童関係 84人 医療関係 0人 国際・環境関係 14人 その他 38人
オリエンテーション	開催日時	平成18年 7月 15日(土) 13時30分～15時30分
	内 容	・活動を始めるにあたっての諸注意 ・活動先施設(団体)紹介 ・活動先別オリエンテーション
	参加人数	・活動者 180人 ・活動先施設担当者 18人
交流会	開催日時	平成18年 8月26日(土) 体験者の部 10時30分～12時 活動先担当者及び中学・高校教諭の部 13時30分～16時
	内 容	・活動報告 ・グループワーク ・意見交換
	参加人数	活動者 9人 活動先施設担当者等 10人

成果・反省点・課題

- * 今年度は例年に比べて参加者が倍増し、人気の子ども関連、特に保育園・児童館に希望が集中した。参加者すべての要望に応えることはできなかったが、不安を抱きながらも参加した活動者が実際の体験後ではボランティア意識の変化や感動を覚えたという感想も多く、受け入れ

施設の好意的な対応と協力を得ることができた。

- * 授業や宿題の一環として一学年全体で参加という中学校もあり、自発的でない参加や活動を義務としている生徒などに対して、どのように「ボランティア活動」についてオリエンテーションしていくか課題となった。
- * 来年度は都立高等学校の奉仕体験活動が開始され、当プログラムに多数の参加が見込まれるため、学校側と連携をとりながらスムーズな受け入れ態勢を整えるとともに、受け入れ施設・団体等の拡大にも努めたい。

3 ボランティア入門講座「はじめの一步」

はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティア入門講座「はじめの一步」を各ランチで開催した。

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ
菊野台コーナー	平成18年 7月29日(土)	5人	2人
	平成18年12月16日(土)	2人	2人
富士見コーナー	平成18年 9月30日(土)	0人	1人
	平成19年 2月24日(土)	2人	1人
染地コーナー	平成18年 6月24日(土)	1人	1人
	平成19年 1月27日(土)	5人	1人
緑ヶ丘コーナー	平成18年 5月23日(火)	2人	2人
	平成18年11月30日(木)	2人	2人
	平成19年 3月29日(木)	0人	2人
野ヶ谷の郷	平成18年 4月15日(日)	1人	1人
	平成18年10月28日(日)	0人	1人

成果・反省点・課題

- * この数年、徐々に参加人数が伸び悩みの状態が続き、事業の継続について検討を重ねた。その結果、身近な地域で気軽に参加できる機会の提供という意味で、ランチでの入門講座は必要である、という結論を出した。
内容、実施日(曜日、時間帯など)を大幅に見直してみたものの、参加者数は伸びなかった。今後はタイトル、広報など、見せ方を工夫する努力をしていきたい。

4 ボランティア専門講座「発達にかたよりのある子どもとのかかわり方」

近年、発達にかたよりのある子どもたちに寄り添う活動(学校への送迎や保育)の依頼相談が増加する傾向にある。そこで、子どもたちを正しく理解し、地域で支えていくには何が必要なのかについての講座と、講師を囲んでの座談会を開催した。

日 時	10月 2日(月)午前10時～午後12時
対 象	送迎・保育に関わるボランティアの方 活動に関心のある方
参加者	19人
講 師	調布市あゆみ学園 関 桐子氏 水谷 素子氏
内 容	・講座「発達にかたよりのある子どもとの関わり方」について AD/HD 自閉症への理解、対応の仕方 ・座談会 現在送迎・保育ボランティアで発達にかたよりのある子どもとかかわりのある方からの質問 に対して講師の方と一緒に考え解決策を模索する。

成果・反省点・課題

- * 現在送迎や保育など、発達にかたよりのある子どもたちとかかわったボランティアの現場からの疑問をボランティアの方達が共有することができた。
- * 講師の方から、「自閉症」や「AD/HD」などについて正しい理解が出来たことは参加者にとって有意義であった。今後の活動につながることを期待したい。

5 小・中学生ボランティア講座（菊野台コーナー）

小学校4年生から高校生までを対象に、ボランティア活動についての学習と体験の場として毎月1回行う。人とのふれあいや様々な体験をとおして、ボランティア活動や共に地域で支えあいながら暮らしていくことの意義について考えていく。

開催日	内 容	参加者数	スタッフ・協力者
平成18年 9月9日(土)	点字で名刺を作ってみよう！	5人	菊野台点字サークル
平成18年10月28日(土)	わりばしりサイクル！環境を身近なところから考えよう！！	5人	わりばしりサイクルグループ「くるりん」
平成18年11月18日(土)	自然の中に「ちょうふ」の良さを見つけてみよう！	3人	ねこじゃらし、他
平成18年12月16日(土)	使用済み切手を整理しよう！	3人	すたんぷ菊野台
平成19年 1月27日(土)	日本語で外国人と国際交流をしてみよう！	5人	調布日本語ボランティアの会
平成18年 2月24日(土)	地域のバリアを見つけてみよう！	7人	菊野台ボランティア連絡会
平成19年 3月10日(土)	全体交流会 みんなで作って食べよう！	5人	菊野台ボランティア連絡会

6 シニア男性のための はじめの一步 (染地コーナー)

開催目的	退職したシニア男性の仲間づくりと地域社会への参加のきっかけづくりを目的として料理教室を開催した。		
開催日と献立	平成18年11月28日(火) 平成18年12月5日(火) 平成18年12月12日(日)	メニュー 野菜料理の基本 肉料理の基本 魚料理の基本	
会場	染地地域福祉センター		
参加費	・3回分材料費 2,000円(料理作りの基礎)		
参加者	60歳以上の男性 8人		
講師	荒井 由紀美氏 (栄養士)		

7 和の布のリサイクル 帽子作り講習会 (染地コーナー)

開催目的	古い着物や和の布のはぎれを使った小物をつくることに関心のある方々の、新たな活動を始めるための仲間づくり。		
日時	平成18年9月7日・14日(木) 午後1時30分~午後3時30分 全2回		
会場	染地地域福祉センター		
内容	簡単にできる帽子づくり		
講師	西 喜美子氏	参加者数	10人

8 おふくろの味 だいこんの甘酢づけ講習会 (染地コーナー)

開催目的	19年度から開催予定のおふくろの味講座の前座として開催。おふくろの味のポイントを学び伝えていくこと。		
日時	平成19年3月15日(木) 午後1時~午後3時		
会場	染地地域福祉センター		
内容	だいこんの甘酢づけ		
講師	斉藤 隆子氏		
参加費	300円 材料費込み		
参加者	9人		

9 染地うたごえ広場 (染地コーナー)

開催目的	世代を問わず音楽をとおして、地域の皆さんに楽しんでもらえる場を手作りで企画運営 10月より毎月第三土曜日開催					
会場	染地地域福祉センター					
日時	H.18.10/21	11/18	12/16	H.19.1/20	2/17	3/17
来客者	21人	35人	23人	32人	36人	46人
内容	童謡、唱歌や皆が歌いたい歌のリクエストから全員で歌う。					
参加費	300円 (飲み物、茶菓子付)					
企画・運営	染地ボランティア連絡会 染地うたごえ広場プロジェクトチーム					

10 仲間づくりと自立のための男の料理塾 (緑ヶ丘コーナー)

開催目的	定年後の男性の食の自立と仲間づくり、地域社会への参加を促すことを目的として開催する。		
開催日と献立	平成18年11月21日(火)	肉をメインにした料理	
	平成18年12月12日(火)	魚をメインにした料理	
	平成19年 1月30日(火)	お米を使った料理	
会場	緑ヶ丘地域福祉センター		
参加者	60歳以上の男性 4人	参加費	3,000円
講師	野瀬 るり子 氏		

11 高齢者のふれあい健康体操 (富士見コーナー)

開催目的	地域の 60 歳以上の高齢者を対象に、健康増進を図るとともに、互いの交流とふれあいを目的にして開催した。		
日時	平成18年11月から12月までの毎週火曜日 8回 午前10時から午前11時30分		
会場	富士見地域福祉センター		
参加者	16人(延べ110人)		
指導者	尾作 明子氏		

12 楽しく運動健康づくり講習会 (センター)

一人ひとりが健康で生きいきと生活できるようサポートすることを目的として開催。17年度の参加者が自主的にサークルを立ち上げ、毎週1回活動している。(さくら会)18年度は1回のみ開催し、サークル活動に引き継いだ。

開催日時	4月5日～5月31日 毎週水曜日 (全8回)午前10時～11時30分
対象	市内在住、65歳以上で自力歩行が可能でグループ形式の受講に参加可能な人
参加者	18名
費用	2,000円(保険料含む)
講師	健康運動指導士・介護予防運動指導士 高橋 亮司 氏
協力	金子スポーツ振興株式会社

8 調査・研究

1 「市民と行政の協働に関する調査」の実施

「協働」を促進し、「協働」することによって、地域社会によりよい効果をもたらすためには、まず、「協働」をそれぞれがどのように捉えているか、どのような形を望んでいるのか、あるいはどのような点ですれ違いが生じるのか、という現状を知り、協働の環境を整えるために何が必要なのか？ということを検証することが重要であると考え、本調査を企画し実施した。

調査目的	「協働」に関する NPO 側の意識を調査し、協働を促進するために、どのような環境整備が必要かを探る。
調査対象	調布市内で活動する非営利団体 74 団体 (NPO 法人 43 団体 / 社団法人 1 団体 / 財団法人 1 団体 / 任意団体 29 団体) 市内に主たる事務所をおく特定非営利活動法人(NPO 法人)43 団体と社団法人1 団体、財団法人1 団体、任意団体29 団体を対象とした。このうち任意団体については、当センターで把握している134 団体の中から活動分野が偏らないこと 組織的運営がなされていること 調査時点で活発な活動展開をしていること、この3つの視点で調査対象団体を抽出した。
調査手法	郵送によるアンケート調査
有効回答数	45 団体(74 団体中) (NPO 法人 17 団体 / 社団法人 1 団体 / 財団法人 1 団体 / 任意団体 26 団体)
報告書	65 ページ(250 部作成)

2 「市民と行政の協働に関する調査」報告会 & 意見交換会の開催

日時	3月28日(水)午後6時30分～8時30分
会場	調布市市民プラザあくるす市民活動支援センター 活動スペースはばたき
参加者数	17名(NPO…8人 市民…1人 行政…3人 運営委員…5人)
内容	「よりよい協働にむけて」 報告「調査から見えてくるもの」 報告者:和田敏明氏(市民活動支援センター運営委員/ルーテル学院大学教授) 意見交換会

成果・反省点・課題

- * 中間支援組織として、協働のプラットフォームづくりという役割を担っていきにあたって、NPO と行政の相互理解を深め、「協働」についての認識をすりあわせていくことが前提となると考え調査を実施した。調査には多くの NPO が快く協力をしてくださり、また行政職員の方々からも、意見を寄せていただいた。結果として、今後の「協働」のあり方を考える過程で貴重な資料となることと思う。
- * 19 年度以降、具体的に協働のしくみづくりに向けて取り組みを進めていきたい。

9 その他

1 他団体会議・講座等への委員、講師、パネラーなど職員派遣

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
5月11日	コーディネーター研修企画委員会	東京ボランティア・市民活動センター
5月24日	新規採用研修	株式会社損保ジャパン
6月13日	図書館ボランティア講座	調布市立中央図書館
8月16日	「民生委員・児童委員発災害時一人も見逃さない運動」研修会	調布市民生児童委員協議会
11月2日	図書館ボランティア講座	調布市立中央図書館
1月17日	民間助成団体連絡会	東京ボランティア・市民活動センター
1月19日	市民公開講座「住民(NPO)と行政が協働したまちづくり」	総務省自治大学校
2月8日	NPO講演会「協働のまちづくり～みんなで考えよう協働推進センター～」	小金井 NPO 法人連絡会、小金井ボランティア・市民活動センター、小金井市
3月10日	全国ボランティアコーディネーターセミナー	板橋区社会福祉協議会
通年	東京ボランティア・市民活動センター運営委員会	東京ボランティア・市民活動センター

2 視察対応

他地域からのセンター見学および研修依頼に随時対応した。

日程	団体名等
7月19日	多摩ボランティアセンター運営委員視察研修
7月20日	東京ボランティア・市民活動センター主催 都内 VC 新任コーディネーター研修
7月25日	小金井ボランティア・市民活動支援センター運営委員視察研修
8月9日	法政大学生インターンシップ
8月31日	小金井市職員、市民委員視察
10月2日	多摩市職員、市民委員視察

3 職員研修

レベルアップを図るためそれぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

会議・講座名称	参加人数	主催団体
支援力強化セミナー	1人	青木将幸ファシリテーター事務所
ミニカウンセリング講座	1人	公益非営利支援センター東京

災害時におけるボランティア・市民活動センターの運営	1人	東京ボランティア・市民活動センター
災害ボランティア活動の充実をめざす対話フォーラム	1人	災害ボランティア支援活動プロジェクト会議、中央共同募金会
NPO 法人運営講座（全5回）	1人	東京ボランティア・市民活動センター
職場研修「生涯学習における情報提供」	4人	調布市市民参加推進室生涯学習交流推進担当
地域での生活を支える支援者・コーディネーターのための研修	4人	東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター研修室